

横浜市立東希望が丘小学校
平成30年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

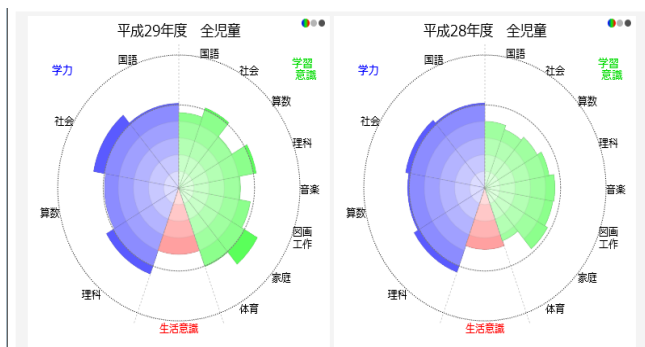
(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<p>○子ども一人ひとりの個性を大切にしながら、50年の歴史に感謝し、地域とともに未来を切り開いていく学校をつくります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの子どもが関心意欲を高め主体的に学習する授業をつくります。 ・一人ひとりの子どもが自分に自信をもち、よりよい人間関係を築いていこうとする態度を育てます。 ・健康でたくましい心と身体を育てます。 ・地域の人とのつながりを大切にして、地域を愛する心を育てます。 ・いろいろなひととのコミュニケーションを通して幅広いものの見方ができる力を育てます。

(2) 学力に関する指導の重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
確かな学力		一人ひとりの子どもが意欲的、主体的に取り組む学習活動を通して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指す。	①一人ひとりに応じた学習を進め、基礎的・基本的な知識技能の習得を図る。②体験的で問題解決的な学習を通して、児童が主体的に学習に取り組む授業の実現を目指す。③地域と連携した学習等を実施していく。④ICTを活用した授業改善を進める。⑤H30重点研はカリキュラム編成とし、「じっくり考え、高めあい、次につなげる確かな学び」を深める授業展開の研究を行う。⑥希望が丘中ブロックの小学校3校で児童英検を引き続き実施し、YICAの成果を検証する。(6年)
担当	重点研推進委員会		

2 横浜市学力学習状況調査等からの平成29年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的には横浜市の平均をやや上回る学力である。しかし、受け身的な学習意識が見られ、言語の活用や資料の活用から表現する力がやや足りない。また自分の考えを自分の言葉で表現し、互いに意見を述べ合おうとする意識が低い状況がある。

学習意欲は少しずつではあるが、高まってきている。とはいえ、まだ横浜市の平均に届かない教科もあるので、児童一人ひとりが意欲を持てるような授業改善は今後も必要である。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：基礎基本の学力はついているが、相手意識をもって話す機会を多く設定することが必要。
- 算数科：基礎基本の学力はついているが、自分の考えを言葉で説明する場の設定が必要。
- 社会科：基礎基本の学力はついているが、進んで調べたり疑問点について話し合ったりする授業づくりが必要。
- 理科：基礎基本の学力はついているが、考えを文や図で表す場面を多く取り入れることが必要。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学習意識調査からみると、学年により非常に差があるが、学習が楽しいと感じていない児童は、原因として自分の考えを説明するなど表現する活動が十分ではないこと、学習したことを日常生活に活用する場を十分に位置付けていないことなどが考えられる。しかし、生活意識調査についても、学年差があるので、各学年の児童の実態に応じた支援が必要である。

学校全体では、学力については大きな変化は見られない。しかし、自分の考えを様々な形、場で表現する学習が十分でなく、その結果、受け身の学習になっていることが多いと思われる。児童が意欲的に取り組める教材開発や、児童が主体的に取り組める工夫をするなど、授業改善の視点としてとらえていきたい。

3 平成30年度 目標と具体的方策

平成30年度 目標

自分の考えをもち、表現する場や相互交流のある授業の実現

(1) 学校組織としての共通の取組

○ 児童が意欲的に取り組む授業改善

授業の中に言語活動（説明、報告、記録、対話、討論など）を多く取り入れ、自分の考えを表現、交流できる授業を行う。

○ 特別支援教育の充実

発達障害等にかかわる研修会を実施するとともに、特別な教育的支援が必要な子どもへの対応の工夫をするための、指導技術を習得する研修を行う。

○ 教材研究の充実

児童が興味・関心をもって授業に取り組める、教材開発や資料を充実させる。

○ **意欲的に取り組む授業の充実**

(2) 学年・教科等としての取組

1 学年

- 各教科で、自分の思いや願いを言葉や形にする経験をたくさんもつとともに、話をしっかりと聞いたり話したりすることができるように、相手の方を向いて集中して聞いたり話したりすることができるようにする。
- ノート指導は、ノートの書式と同様の板書を心がける。

2 学年

- いろいろな読み物にふれさせることで、文章を読むことに興味をもち、文章を読み取る力が身につけられるようにする。
- 相手意識や目的意識をもって話す機会を多く設定し、授業や場の設定を工夫する。

3 学年

- 相手意識をもって自分の考えを伝えられるようにできるような授業や場の設定をする。
- 筋道立てて既習事項をもとに分かりやすく説明することができるような場面をたくさん児童が経験できるようにする。
- 高い学習意欲を維持できるような単元設定をする。

4 学年

- 学んだことを言葉や文・絵などをはじめ、様々な方法で周りに伝えたり、表現したりできるように個に応じた表現方法を見極めるなどの教材研究をする。
- 文章を読み、内容を読み取った上で自分の考えをもち、疑問をもって解決したりできるように、一人一人の興味・関心を大切に課題設定、導入を工夫する。

5 学年

- アクティブラーニングを取り入れることで、伝えあう力、表現力が身につくようにする。
- 全員が言語活動に参加し、互いの考えのよさを認め合えるように、授業や場の設定を工夫する。
- 少人数学習で、個に応じた指導することで全体の学力アップを図る。同時に、苦手なことにも安心して取り組める学習環境をつくる。

6 学年

- 基礎基本の習熟を図りながら、自らの課題を自分で見つけ、その課題解決のためによりよい学習方法を探して解決しようとする授業づくりをする。
- 思いや考えを互いに伝え合い認め合うことで、互いを尊重し誰もが安心して参加でき、さらには自尊感情を高められるような授業づくりを行う。

個別支援学級

○的確な実態把握のもと、個々の教育的ニーズの選定を行い、環境の整備をする。児童自身が主体的に自己の力を可能な限り発揮できるよう、合理的配慮の姿勢をもって一人一人の目標設定を行い、子どもたちが意欲的に学ぶ姿を多方面から励まし、仲間と共に生きる姿を育くむ。